「あったか言葉」実践例より

|  |  |
| --- | --- |
| 具体的目標の実施計画表 | |
| **１　教える行動を決めましょう** | |
| （例）友だちと話をする時は，**「あったか言葉」**を使おう。 | |
| **２　児童に伝える：「この行動を学ぶ理由」を考えましょう** | |
| ・あったか言葉を言われたら，気持ちがよいから。言った人も気持ちがよいから。  ・友達との仲もよくなって，「またあったか言葉を使おう」と思えるから。（よいサイクルができる） | |
| **３　具体的な行動モデルを示しましょう** | |
| 良 い 例 | 悪 い 例 |
| ・間違った時に，「いいよ。」「大丈夫だよ。」「次はできるよ。」  **→間違うことが苦にならない。次もやろうと思える。**  ・配布物を渡す時「どうぞ。」もらった時「ありがとう。」  ・人のうれしい話を聞く時，「よかったね。」「すごいね。」と共感する言葉。 | ・間違った時に「えっ!」「何してるの！」「きちんとして！」  **→やる気を失う。すねる。泣く。**  ・配布物を渡す時や，もらった時も無言。  ・人のうれしい話を聞く時「自慢してる？」「どうでもいいし。」と言う。  ※悪い例は，児童が演じずに教師が演じる。 |
| **４　実際に練習するための具体的な計画を立てましょう** | |
| 例えばロールプレイの場面を設定，授業中に算数の答えを間違ったという設定で行う。  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　15÷3は？のように，答えがはっきりしている問題を提示する。   1. 教師が良い例と悪い例を演じる。 2. 児童たちが，どんな気持ちになったか考えたり発表したりすることで，あったか言葉を使う必要性に気付かせる。 3. 実際に，同じ場面設定で，児童が演じる。（言葉は児童が考えて，教師と同じでなくてもよい） 4. あったか言葉が使えていれば，「今のすごくよかったよ。」「優しいね。」と賞賛する。   悪い例の言葉が出てしまった時は，「今のは，○○って声をかける方がいいよね。」と修正する。   1. ふり返りをする。 | |
| **５　期待される行動の手がかりを作成しましょう** | |
| ・「あったか言葉」「チクチク言葉」というキーワードだけ掲示して，自分の言葉をふり返り意識づける。  ・あったか言葉の樹を廊下の目立つところに貼り出し，あったか言葉（葉っぱ）を付けていく。  ・あったか言葉を聞いたり，言えたりした回数を自分で記録しておいて，帰りの会で発表する。発表は，友達の良いところや自分がしてもらって嬉しかったことなどを発表する。  ・あったか言葉を言えた回数をグラフ化して，帰りの会で賞賛する。 | |
| **６　児童が自ら取り組む行動について計画しましょう** | |
| ・日記に家で使ったあったか言葉を書くようにすることで，「家でも使おう！あったか言葉大作戦」を企画する。また，学年通信，広報，校長室だよりで，家庭にも取組を知らせ，呼びかける。 | |
| **７　児童の行動変容を記録する方法を計画しましょう** | |
| ・あったか言葉を使えたらカードに書き，教室内のポストに投函する。取組当初は毎日実施し，徐々に回数を減らしていく。 | |
| **８　望ましい行動に対する「ほめ方」を計画しましょう** | |
| ・あったか言葉が使えた時に，すぐほめる。帰りの会の時に，児童のあったか言葉を学級全体にフィードバックして全体でほめる。ポストに投函されているあったか言葉のカードの数を数えてグラフ化し，その成果をほめる。 | |